

- 1. 単元名 「わたしたちの県」～低地のくらし 海津市～
- 2. 本時の目標 低地の海津市では、排水が難しいという不利な条件を克服し暖かい気候を生かして、常に新しい方法を工夫し続けることによって、トマトの生産高が県内1位になったことが分かる。

- 3. 本時の評価規準
 - <思考・判断> トマトの生産量が増えたのは、畑の排水施設を整え水が入らないハウスをつかって低地の不利な条件を克服したり、冬でも日照時間が長いという気候を生かしたりしながら常に新しい農業を考えて工夫や努力をし続けているからだということを考えることができる。

- 4. 児童の実態
 - 学ぶ意欲 : 資料から疑問をもち、高山と対照的な海津市のくらしについて課題につなげようとするようになってきた。主体的、継続的に課題を追究していく意欲にまだ弱さがある。(関心・意欲)
 - 学ぶ力 : 課題から予想を立て、自分の生活経験や既習内容から自分の考えもつことができるようになってきた。仲間と自分の考えの共通しているところと違うところを交流の中から見つけ、試行錯誤しながら自分の考えを深めていくことが不十分である。(思考・判断)
 - 学び得た力 : 海津市のトマト農家がたくさん生産するために、様々な努力をし続けていることを理解している。(知識・理解) (技能・表現)

5. 本時の展開 (9/11時)

過程	学習活動	研究テーマ具現のための手立て											
見通しをもつ	<p>1. 前時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トマトをつくるには、水を途中から切らなくてはいけない。 ・水はけの悪い海津市では、つくるのにとても苦労していた。 <p>2. 資料から本時の課題を設定する。(生産高県内1位のグラフ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水の多い海津市でトマトの生産が岐阜県1位にまでなったことがあるなんてすごいなあ。どうやってつくったのだろう。 ・たくさんトマトをつくることのできるんだなあ。 	<p><子どもにとって切実感のある学習課題設定の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題につながる意識のずれから問題意識がもてるようにする。 ・前時までの既習内容から海津市のトマトづくりの方法と海津市でのトマト生産高1位という実態を比べ、疑問や驚きを引き出す。 ・子どもが自分の言葉で課題を作ることができるように補助資料や発問を精選する。(研究内容Ⅲ-②) 											
	<p>売れるようなトマトは作れないはずなのに、岐阜県内の生産高が1位になるくらいたくさんのトマトが海津市で作ることができるようになったのはのはどうしてだろう。</p> <p>3. 予想を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水をうまくなくす機械を使って水を出しているのかな。(排水機の利用) ・水に強いトマトをつくっているのかもしれないなあ。(品種改良) ・海津市だけのつくり方の秘密があるのかもしれない。(努力や工夫) <p>4. 資料から個人で追究する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">資料1 海津市のトマト出荷時期(表) 海津市と高山市と日照時間(グラフ)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">資料2 海津市のハウス施設と排水機(写真)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">資料3 機械化とハチを使った受粉についての生産者の話(文章資料)</div> </div>	<p><学習課題に対する子どもの見方・考え方を引き出す学習活動の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えの足場となる複数資料を絵や写真、表、文章など形式の違うものを使うことによって、誰もが意欲的に学べるようにする。 ・資料別、個別、二人交流といった学習形態をとることによって、自分の考えやすいものから資料を選んで考えたり、自分の考えを確認したりする。(研究内容Ⅱ-③) <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th></th> <th>学びの状況</th> <th>教師の指導・援助</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Aの児童</td> <td>資料から複数の考えがもっている。</td> <td>考えを比べたりつなげたりして、さらに課題への考えを深めるよう促す。「この二つの考えからどういうことが言えるかな。」</td> </tr> <tr> <td>Bの児童</td> <td>資料から一つの考えがもっている。</td> <td>資料から考えたことを評価し、他の資料からも考えることを促す。「この資料には1位になった秘密はないかな。」</td> </tr> <tr> <td>Cの児童</td> <td>資料の選択に迷う。資料から考えがもてない。</td> <td>一つ一つの資料を一緒に見ながら考える。「トマトはいつとれる野菜だったかな。」</td> </tr> </tbody> </table>		学びの状況	教師の指導・援助	Aの児童	資料から複数の考えがもっている。	考えを比べたりつなげたりして、さらに課題への考えを深めるよう促す。「この二つの考えからどういうことが言えるかな。」	Bの児童	資料から一つの考えがもっている。	資料から考えたことを評価し、他の資料からも考えることを促す。「この資料には1位になった秘密はないかな。」	Cの児童	資料の選択に迷う。資料から考えがもてない。
	学びの状況	教師の指導・援助											
Aの児童	資料から複数の考えがもっている。	考えを比べたりつなげたりして、さらに課題への考えを深めるよう促す。「この二つの考えからどういうことが言えるかな。」											
Bの児童	資料から一つの考えがもっている。	資料から考えたことを評価し、他の資料からも考えることを促す。「この資料には1位になった秘密はないかな。」											
Cの児童	資料の選択に迷う。資料から考えがもてない。	一つ一つの資料を一緒に見ながら考える。「トマトはいつとれる野菜だったかな。」											
追究する	<p>5. 調べたことを交流する。(2人で、全体で)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・冬にたくさん出荷しているのだからと時期をずらしているんだ。 ・冬に作ればたくさん売れそう。 ・冬でも太陽がいっぱい照ってトマトが作れるんだ。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・家みたいに立派で水が防げそう。 ・どうしてハウスが2種類なんだろう。 ・これで1年中トマトが作れるからたくさんとれるんだ。 ・排水機で水切りもしっかりできそう。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・全部自動ですごいなあ。 ・人が働きやすいように茎が動くんだ。 ・手間もかからずしっかりと実が付くようにハチを使って受粉するなんて考えているなあ。 </div> </div> <p style="text-align: center;">資料をつなげて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハウスを使って気温を上げるから、冬でもたくさんとれるんだ。 ・排水機だけでなく、いろんな機械を使ってたくさんとれるようにしているなあ。 	<p><新たな見方・考え方に気づく学習活動の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えを交流し、深めるための時間の保障をする。 ・一斉での学び合いの場を設定し、自分の考えを意見交流の場で広げ、練り合い、さらに深めていく。(研究内容Ⅲ-③) <p><子どもの学びの状況に応じた指導・援助の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な意見を引き出すために、教師が意図的に指名をする。(研究内容Ⅳ-①) 											
	<p>6. トマト農家近藤さんの話から自分や仲間の考えを確かなものにする。</p> <p>私は父の代からもう40年近くこの場所でトマトをつくっています。海津市は、水も日照時間も豊富で、実は植物が育つには適している場所なのです。でもトマトをつくるには途中から水を与えてはダメなので、地域のトマト農家とも協力して水が入ってこない工夫をずっと続けてきました。おかげで冬でも暖かく日照時間の多い海津市は生産高が1位になるくらい、いいトマトが作れるようになりました。これからももっともっとトマトをつくってみんなに食べてもらいたいと思います。</p>	<p>教師の深めの問いかけ(試行錯誤)</p> <p>(教師の指導・援助)</p> <ul style="list-style-type: none"> ※トマトづくりのため自然条件の「克服」と「生かし」の両方を結びつけるために「海津市ではトマトづくりにいい条件はないのかな」と問い返す。 ※子どもから出た場合「海津市の農家の人は、ちゃんと暖かい気候も生かしてトマトを作っているんだなあ。」「海津のよさ」と結びつけたことを評価し、「克服」したことと「生かし」たことは何なのかを具体的に再度価値づける。 											
まとめ	<p>7. 本時のまとめと自己評価チェックを行う。</p> <p><まとめ> 低地の海津市で売れるトマトが作れるのは、機械やハウスで水を抜いていることと、暖かい気候を利用して冬に作物が作れる土地のよさを生かしていること、さらに農家の人もたくさん売れるトマトを作るための工夫し続けているからです。</p> <p><感想> 友だちの考えと自分の考えをつなげて発表することができたのでよかったです。</p>	<p><追究したよさが実感できるまとめの工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料から深めた意見をキーワードで板書し、それを使ってまとめと感想を書くことによって認め、自信をもたせる。 ・課題に対してどのような取り組みができたか、自己評価チェックを行う。(研究内容Ⅳ-②) 											

